資料6

令和4年度　認知症初期集中支援チーム　活動報告

（R4年5月31日現在）

	No.	性別	年齢	初回相談者	相談経路	支援開始	支援終了	診断名	対応結果
令和3年度からの継続事例	1	女	82	本人	地域包括支援センター	R3年8月			本人からの問合せを契機に担当包括が家庭訪問。もの忘れ等の認知症の初期症状がみられることから、チームに支援を依頼。 同居家族の支援を受けながら生活ができている様子を確認。一方で、支援開始当初から症状の進行がうかがえるため、人との交流や活動を増やして進行を遅らせる目的で、デイサービス等の利用を目標に支援継続中。介護認定申請済。本人の希望を聴きながら、支援をすすめる。
	2	男	74	家族	地域包括支援センター	R3年10月	R4年4月	アルツハイマー型認知症	家族より相談あり。認知症の初期症状みられる。医療機関受診・介護サービスともに未利用。チーム支援により専門医受診し、診断を受けることができた。本人も理解され、デイサービスの利用を開始。利用状況も安定したためチーム支援を終了。
	3	女	88	民生委員	地域包括支援センター	R3年12月		認知機能の低下なし。妄想性障害（疑）	独居。もの忘れ、物盗られ妄想の症状あり。支援開始直後に胸椎の圧迫骨折を生じ、介護認定申請、訪問型サービスの利用開始。 その後、もの盗られ妄想が悪化するが、専門医受診し、鑑別診断の結果は認知機能低下はなく、妄想性障害（疑）と診断。
	4	女	74	家族	家族	R3年12月			火を消し忘れて鍋を焦がす、計算・薬の管理が困難等の初期症状、活動意欲の低下があり、昼間独居になるため心配と。認知症の診断を受け、介護サービスを利用した方がよいと思うが、家族から勧めても拒否。過去に介護認定を受けたがサービス利用は拒否。チームの支援依頼があったため、支援継続中。
	5	女	83	民生委員	地域包括支援センター	R3年12月			金銭管理やごみ捨てなどができなくなった。医療・介護につながっておらず、支援開始。 担当包括と連携し、金銭管理のサービス等の利用手続きを進め、本人の困り感が少しずつ表出され始めたことから、医療機関の受診ができ、介護認定申請につなぐことができた。サービス等の開始までは、服薬や生活の確認を継続支援中。
	6	女	74	家族	地域包括支援センター	R4年1月			担当包括が長期間支援を実施。主に同居家族からの継続した相談に対応。アルツハイマー認知症の診断を受けているが、介護サービスの利用は拒否。 別居している家族から、掃除や調理、金銭管理が困難になっていると相談があり、サービス利用に向けて協力が得られた。本人の了解を得て、デイサービスとヘルパーの利用を開始予定。

	No.	性別	年齢	初回相談者	相談経路	支援開始	支援終了	診断名	対応結果
令和3年度からの継続事例	7	男	75	本人	地域包括支援センター	R4年1月			担当包括が長期間支援実施。妻の認知症のことでたびたび、担当包括に相談されるが、具体的な対応策を提案しても進まない。本人も掃除や調理はできないため妻と二人の生活は困難。チームの支援により医療機関受診、介護認定申請の手続きができ、デイサービス利用開始予定。
	8	女	79	薬局	地域包括支援センター	R4年2月			薬局より担当包括に情報提供あり。「薬の飲み方がわからなくなった」との発言が目立つようになった。薬を受け取って薬局を出た後、受け取ったことを忘れて再度来局。職員が対応するが激昂して「もう薬は飲まない！」と出て行ってしまい、その後の来店がない。 チームの支援により主治医と連携し、複数医療機関の処方を一包化し、薬剤師の訪問により支援。本人の混乱が落ち着いた。 運動をしたい希望があるため、介護認定申請手続きをし、介護サービス利用に向けて支援継続中。
令和4年度新規	1	男	69	—	地域包括支援センター	R4年4月			記憶障害、金銭管理ができない等の認知機能低下がみとめられる。多量のアルコール摂取、転倒による硬膜下血腫、脳梗塞の既往あるが、治療継続せず。受診拒否。現在、医療機関受診しておらず、介護サービスの利用なし。 金銭管理の支援を利用開始するが、食料の買い出しができずに担当包括が本人の所持金と食料の状況を確認して、買い出しに付き添っている。